

## 令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立築瀬小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

令和4年4月19日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問紙)

#### 4 本校の参加状況

① 国語	73人
② 算数	73人
③ 理科	74人

#### 5 留意事項

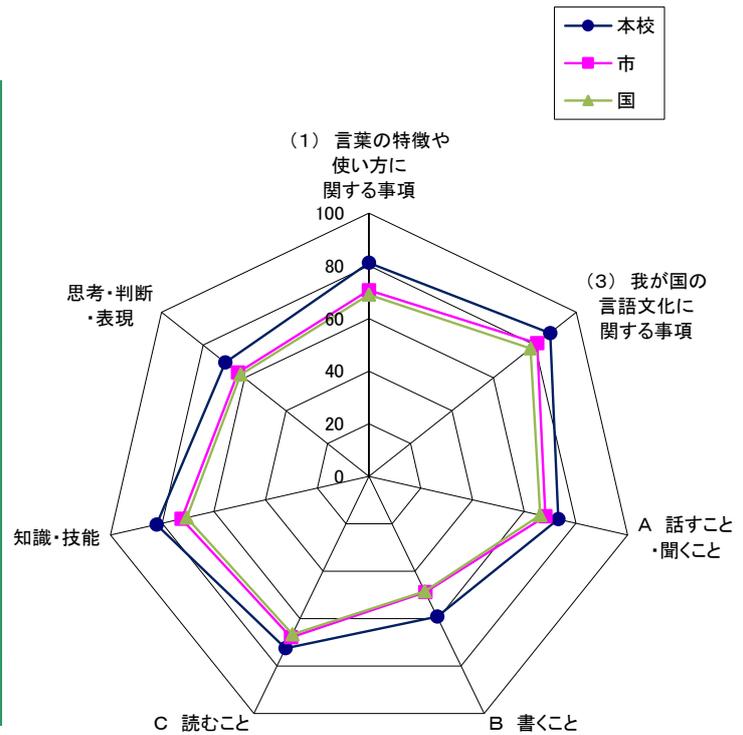
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立築瀬小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	81.1	70.7	69.0
	(2) 情報の扱い方に関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	87.3	81.1	77.9
	A 話すこと・聞くこと	73.2	68.2	66.2
	B 書くこと	59.2	48.9	48.5
	C 読むこと	72.5	67.9	66.6
観点	知識・技能	82.2	72.5	70.5
	思考・判断・表現	69.4	63.2	62.0
	主体的に学習に取り組む態度			



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

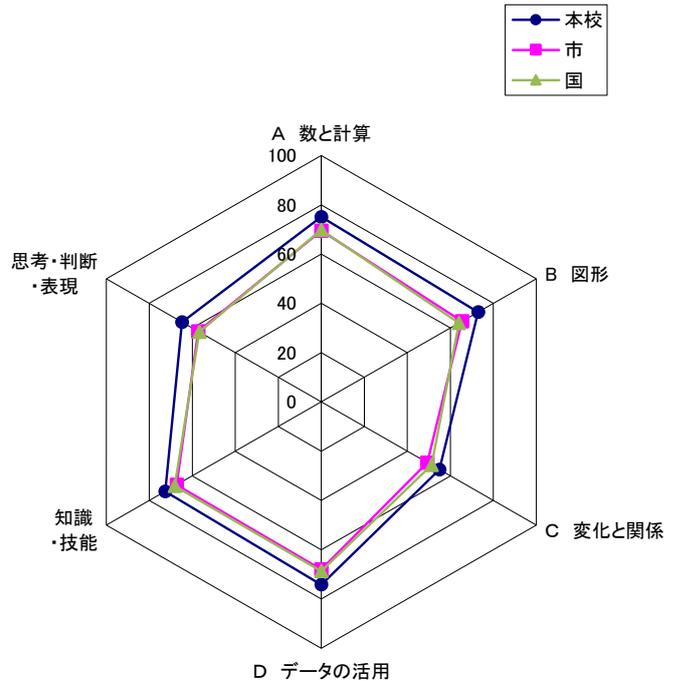
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	○平均正答率は81.1%で、全国平均と比べて12.1ポイント高い。 ○漢字を文中で正しく使うことに関する設問については、全国平均を13.4ポイント上回り正答率は77.0%と高かった。 ○「言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える」についての平均正答率は81.7%で、全国平均より12.9ポイント高かった。	・漢字の読み書き、主語・述語、語彙においては、引き続き指導し、さらに力を伸ばしていきたい。また、「話し言葉と書き言葉との違いを理解する」項目については、定着が図れるよう指導していきたい。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	○平均正答率は87.3%で、全国平均と比べて9.4ポイント高い。 ●文章ではなく、文字単体に注目した誤答が8.4%と高かった。	・「漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く」項目については、書写の時間だけではなく教科横断的な指導をしていく。
A 話すこと・聞くこと	○平均正答率は73.2%で、全国平均と比べて7.0ポイント高い。 ●「互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめる」の項目については、平均を7.2ポイント上回っているが、正答率は54.9%と低かった。	・条件に合わせて自分の考えをまとめることができるように、国語の時間だけではなく他教科の学習においても、字数や表現方法に条件を出すなどして、適切な文で表現する機会を設ける。
B 書くこと	○平均正答率は59.2%で、全国平均と比べて10.7ポイント高い。 ○「文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える」項目は8.4ポイント、「文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける」項目については13ポイントとどちらも全国平均を上回っている。	・条件に合わせて自分の考えを書くことができるように、段落や字数などの条件に合わせて書く学習を今後も意図的に行う。
C 読むこと	○平均正答率は72.5%で、全国平均と比べて5.9ポイント高い。 ○「人物像や物語の全体像を具体的に想像する」項目では、全国平均と比べ10.6ポイント高かった。 ○「登場人物の相互関係について、描写を基に捉える」項目では、平均正答率は71.8%で全国平均とほぼ同じであった。 ●「人物像や物語の全体像を具体的に想像する」項目では、無回答率が8.5%と高かった。	・物語文の読み取りについては読み聞かせや読書の効果が表れていると思われる。一方で、無回答率も高いことから読書量が少ない児童に対して本に関わる機会を設けていく。

# 宇都宮市立築瀬小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	75.1	69.5	69.8
	B 図形	72.9	65.4	64.0
	C 測定			
	C 変化と関係	54.9	49.3	51.3
	D データの活用	74.2	68.0	68.7
観点	知識・技能	72.6	67.3	68.2
	思考・判断・表現	64.8	57.3	56.7
	主体的に学習に取り組む態度			



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

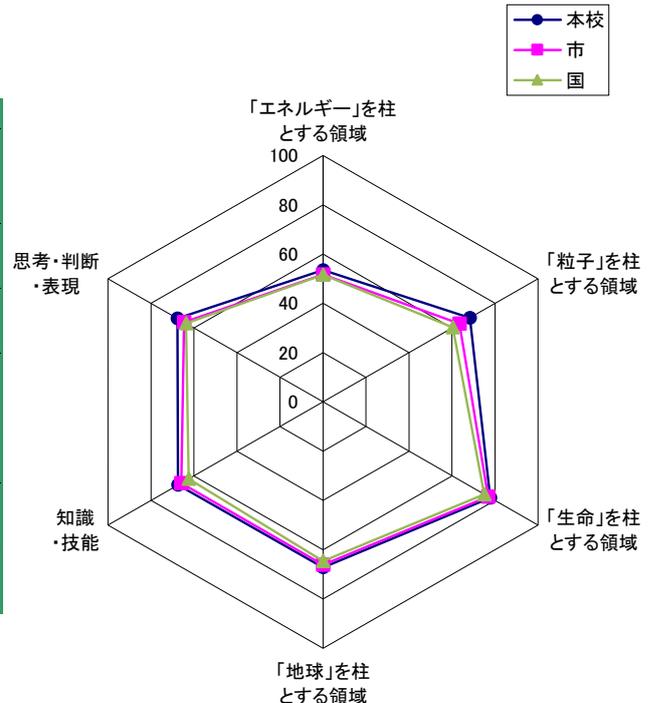
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<p>○すべての問題で全国平均の正答率を上回っている。特に加法と減法の混合したポイント数の求め方と答えを記述する問題では、正しく答えられた児童は76.1%で、全国平均より8.4ポイント高かった。</p> <p>●示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述する問題では、正答率は81.7%で全国平均の正答率より5.7ポイント高かったが、無解答率が7%であった。</p>	<p>・問題の意味を正しく読み取ったり、式の意味合いを考えたりする時間を設け、全体でも確認していく。</p> <p>・式の説明を書かせる際に、例文を示したり、定型文などを用いさせたりして、考えを表現する方法を身に付けさせる。</p>
B 図形	<p>○すべての問題で全国平均の正答率を上回っている。特に、示されたプログラムについて正三角形をかくことができる正しいプログラムに書き直す問題では、正しく答えられた児童は62.0%で、全国平均より13.2ポイント高かった。</p> <p>●長方形のプログラムについて、向かい合う辺の長さを書く問題では、正答率は91.5%と高かったが、無回答率が5.6%だった。</p>	<p>・図形に対する感覚を豊かにするために、色板並べやパズル等、学年の発達段階に合わせた学習を適宜取り入れる。</p> <p>・図形の学習に入る前には、既習事項を確認し、基礎基本の定着を図る。</p>
C 変化と関係	<p>○すべての問題で全国平均の正答率を上回っている。特に、百分率で表された割合と基準量から比較量を求める問題では、正しく答えられた児童は73.2%で、全国平均より8.6ポイント高かった。</p> <p>●果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたときの、果汁の割合について正しいものを選ぶ問題では、正しく答えられた児童は18.3%と低かった。</p>	<p>・実生活と結び付けた活動を取り入れ、知識の定着を図っていく。</p> <p>・基本的な問題に加え、発展的な問題に取り組ませることで、力を高めていく。</p>
D データの活用	<p>○すべての問題で国の正答率を上回っている。特に、分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察する問題では、正しく答えられた児童は77.5%で、国の平均より13.9ポイント高かった。</p> <p>●目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取る問題では、正しく答えられた児童が67.6%と低かった。</p>	<p>・どのグラフから情報を読み取ったのか、根拠を明確にしたり、読み取った情報と関連付けたりして考え、順を追って丁寧に読み取る活動を行うようにする。</p>

# 宇都宮市立築瀬小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	53.5	51.7	51.6
	「粒子」を柱とする領域	68.3	63.5	60.4
	「生命」を柱とする領域	77.8	76.8	75.0
	「地球」を柱とする領域	67.2	66.1	64.6
観点	知識・技能	67.4	65.9	62.5
	思考・判断・表現	67.7	64.6	63.7
	主体的に学習に取り組む態度			



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	<p>○平均正答率は53.5%で、全国平均と比べて1.9ポイント高い。</p> <p>○実験の結果から、問題の解決に必要な情報が取り出しやすく整理された記録を選ぶ設問では、平均正答率が79.2%で全国平均を4.8ポイント上回っている。また、問題に対するまとめからの根拠を実験の結果を基にして書く設問では、平均正答率が40.3%で全国平均を5.2ポイント上回っている。</p> <p>●自分の予想した実験方法と追加された情報を基に、実験方法を見直し、新たに追加して手順を書く設問では、平均正答率が62.5%で全国平均を6.4ポイント下回っている。</p> <p>●記述式の設問において、必要な内容が十分に記述できていない誤答や無回答が多かった。</p>	<p>・授業内で課題を作ったり予想をして実験方法を考えたり結果をまとめ考察したりする際に、記述をする時にキーワードを示すなど必要な言葉を意識して書かせる工夫をしていく。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>○平均正答率は68.3%で、全国平均と比べて7.9ポイント高い。</p> <p>○体積をはかり取る器具名や使い方、他者の気付きの視点から分析したり予想と実験結果からまとめを検討したりして自分の考えを選んだり記述したりすることができる。</p> <p>●凍った水溶液について、試してみたいことを基に、見出された問題を解く設問では、全国平均を7.9ポイント上回っていたが平均正答率が47.2%と低く、記述のし方が「問題」の書き方としては不適切な誤答や無回答が多かった。</p>	<p>・実験器具の使い方が十分に習熟できるように時間を確保するとともに、目に見えない粒子を意識できるような実験やまとめを工夫して授業を行う。</p> <p>・学習問題を話し合うときは、適切な表現を意識して話し合うようにする。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>○平均正答率は77.8%で、全国平均と比べて2.8ポイント高い。</p> <p>○昆虫の主な食べ物と育ち方の表を様々な視点で分析し自分の考えを選ぶ設問では、平均正答率が79.0%で全国平均を9.5ポイント上回っている。</p> <p>●見出された問題を基に観察記録を選ぶ設問では、平均正答率が88.9%で全国平均を4ポイント下回っている。また、昆虫の体のつくりの特徴を基に説明をするための視点を選ぶ設問では、平均正答率が70.8%で全国平均を2.3ポイント下回っている。</p>	<p>・生物を扱う授業では、できるだけ本物に触れさせるとともに、ICTを活用したデジタル教材等で生きている教材だけでは分かりにくい部分を理解しやすくなるよう工夫していく。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>○平均正答率は67.2%で、全国平均と比べて2.6ポイント高い。</p> <p>○他者の予想を基に結果を見通す設問では、平均正答率が68.1%で全国平均を3.6ポイント上回っている。また、結果からいえることは結果のどこを分析したのかを選ぶ設問では、平均正答率が55.6%で全国平均を10.1ポイント上回っている。</p> <p>●冬の天気と気温の変化の結果を基に、問題に対するまとめを選ぶ設問では、平均正答率が80.6%で全国平均を1.7ポイント下回っている。</p>	<p>・気温や天気などについてグラフや図などを用いて考える授業では、分析し解釈をする視点をはっきりさせるようにして考察したりまとめさせたりする。</p> <p>・予想や考察をまとめる際には、必ずその根拠をはっきりさせるようにする。</p>

## 宇都宮市立築瀬小学校 第6学年 児童質問紙

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

#### 1 生活習慣について

○携帯電話・スマートフォンやコンピューターの使い方については、家の人と約束したことを守っているという肯定的回答が78.3%で、全国の平均よりも高く、使用時間も栃木県や全国の平均よりも少ない傾向にある。しかし、まだ家での使用に関する約束がない家庭や長時間使用の児童がいるので、家庭内でのルールの徹底について授業や学年だより等で啓発活動を続けていきたい。

●朝食を毎日食べているかについては、肯定的回答が91.9%で、栃木県や全国の平均よりも低い。全く食べていないという回答も4.1%あるので、朝食を食べることの大切さについて授業で指導するとともに学年だより等で家庭への啓発活動も続けていきたい。

#### 2 自分自身や他人や社会との関わりについて

○●困りごとや不安があるとき、先生や学校にいる大人にいつでも相談できるかについて、肯定的回答が77%で栃木県や全国の平均よりも高いが、いつでも相談できると思っていない児童も23%いる。今後も教育相談等の時間を充実させたり、児童と教職員の人間関係を深めたりするようして、児童の困りごとや不安解消に努めていきたい。

#### 3 学習について

○家庭学習の時間については、1時間以上と回答した児童が、平日では85.4%、休日では83.9%で、いずれも全国の平均よりも高い。また平日の読書の時間についても、30分以上と回答した児童が41.9%で、全国の平均よりも高い。これは、放課後や週末の過ごし方について、家で読書や勉強している割合が栃木県や全国の平均よりも高い66.2%という結果とも一致している。現在身に付いているこの良い習慣を継続できるようにさせていきたい。

●○算数の学習について、「好き」と肯定的に回答している児童は56.8%と、やや低い傾向にある。反面、「大切」「分かる」の回答はそれぞれ94.6%、82.5%と高い。「解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える」という項目の肯定的回答は79.7%であった。授業において、課題解決を行う際に、学び合いの学習を通して、お互いの考えを伝え合い、より良い解き方を見つけていく活動を通して、算数の学習の楽しさやおもしろさを体験させていくことが必要であると考える。

○●ICTの活用については、授業中に自分で調べる場面で週1回以上していると回答した児童の割合が83.8%、友達と意見を交換する場面で週1回以上していると回答した児童の割合が54.1%で、栃木県や全国の平均よりも高い。しかし、自分の考えをまとめ発表する場面で週1回以上していると回答した児童の割合が43.3%で栃木県や全国の平均よりも低い。ICT機器を使うのは勉強の役に立つかという質問についても肯定的回答が90.5%で、栃木県や全国の平均よりも低いので、自分の考えをまとめ発表する場面で有効な活用などを体験させていきたい。

●5年生までに受けた授業で、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだか」については、肯定的回答が70.2%、各教科などで学んだことを生かしながら自分の考えをまとめる活動については、肯定的回答が62.2%で全国の平均よりも低い。授業の中で、課題の解決に向けて自分で考えたり、その考えをまとめ表現したりする場面を工夫し、支援をしていくようにしていきたい。

## 宇都宮市立築瀬小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的、基本的な知識及び技能の定着とともに、文章の内容を正しく読み取る力の育成。</li> <li>・主体的に自分の考えや思いを表現する力の育成。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的、基本的な学習内容の定着を図るために、学び方や考え方の定着の要素を考えた授業を展開していく。</li> <li>・国語だけではなく、あらゆる教育活動において、文章の内容を正しく読み取り、根拠をもとに自分の考えを書く活動を取り入れていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語の「知識・技能」に関する調査結果は、全国平均を11ポイント上回っていた。また、「書く」領域でも12ポイント上回っており、取り組みの成果が見られた。</li> <li>・どの教科においても文章で答える質問では、無回答の児童が見られた。</li> </ul>

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>・理由や考え方を記述する問題で、無回答の児童がみられた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめや説明に必要な用語を意識して使いながら、文章に表す活動を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理解したことについて、自分の言葉で順序立てて説明する文章を書いたり、字数や言葉等の条件を与えて書いたり、文型に合わせて構成を考えて文章を書いたりする経験を積む機会を与えることで自分の考えを書く習慣を身に付けさせていく。</li> </ul>